

生涯学習における童謡・唱歌の位置付け その2

— 全国で歌われるうたを中心に —

兎 東 淑 美

はじめに

童謡・唱歌を歌う運動は全国で平成6年に引き続き活発な活動が行われている。本年（平成7年）9月3日（日）～4日（月）群馬県前橋市・県民文化会館において「第5回 全国童謡・唱歌サミット&フェスティバル」が開催された。サミットでは全国から89（自治体43・民間46）団体、551名（全国243名・群馬308名）の参加があり活発な意見交換が行われた。

自治体からは郷土から輩出された優れた作詞家・作曲家を中心に地域興しの事業の一環として力を入れている報告がいくつもあった。美しい郷土、海や山、四季折々の豊かな自然や風土がこれらの人々を育み、そこからすばらしい曲が生まれたことを伝えている。例えば鳥取県では地元出身の作曲家（「ふるさと」岡野貞一）などを称え「童謡・唱歌のふるさと鳥取」のように企画実行委員会を組織し県、県教育委員会、市、市教育委員会、社団法人日本童謡協会主催の「日本創作童謡コンクール」を行い今年第7回を迎えている。同じような趣旨で取組を行っている自治体は全国でも多かったが、童謡・唱歌の普及と同時に21世紀を担う子ども達のゆめを育むことと、新しい童謡の創作とその普及を図ることが主な柱と思われた。コンクールの応募者は全国からあり最優秀賞他二位まで賞金も出るようになっていた。柱の一つ童謡・唱歌の普及と21世紀を担う子供に夢を与える取組として、群馬県勢多郡東村では慶応元年（1865）に郷土に生れ言文一致の唱歌を作った石原和三郎（代表作「うさぎとかめ」）を記念して「童謡ふるさと館」を作っている。彼の功績と唱歌を後世に残す目的である。又一方当時の曲に、新しい楽器（シンセサイザー）を使い新しいリズムを用いた伴奏を付けてCDを出していた。そして村の小学生を中心にハンドベルの合奏団を作り童謡・唱歌を演奏し村の小さな音楽大使をしていた。

一方民間の団体は懐かしい童謡・唱歌を歌いたい人の輪を広げている。その中には子どもの育成をうたを通して行う報告もあった。又発表や例会を活発に行っているグループも沢山あった。

初めてサミットに参加して全国の自治体、民間の団体の数の多いことに驚き、自分達の会と比較しながら発表を聞いた。

平成7年9月17日（日）「上田童謡・唱歌を愛する会」は五周年を迎え記念行事を行った。「講演とうた」の内容で講演は中山晋平ゆかりの中山渡・中山梶子（晋平の養女）夫妻、「赤い鳥と童謡」・「父の思い出」であった。渡先生は唱歌と童謡の出来た背景や、中山晋平と山田耕作の曲の表現方法の違いなどを語り、梶子先生は晋平の素顔、童謡を作曲する時の心や苦

心した点（わらべうたのリズムを如何に楽譜に表わすか）など貴重なお話であった。

更に平成7年4月全県下に呼びかけて「長野県童謡・唱歌をうたう会」が発足した。10月23日（土）松本市民会館において「第1回長野県童謡・唱歌フェスティバル」が行われ中田喜直氏の講演「お話とうた」と県下の各地区の童謡の発表があった。参加団体は42、参加者の合計は1945名であった。

長野県全体でも参加した団体以外に多くの団体があることがわかっているが、全国と合わせて今の時代に大勢の人がうたを歌うことに喜びを感じていることがわかる。そんな中で全国、長野県、上田と記念すべき大会に参加したり関わったりしたことから、全国で歌われるうたについて分析してみたいと思った。平成元年「NHK 日本のうた・ふるさとのうた100曲」（全国実行委員会編）を基に全国から投書によるベスト100曲について、現在の童謡・唱歌のブームと合わせて私なりの曲の分析を試みた。

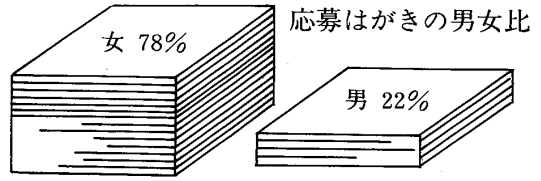
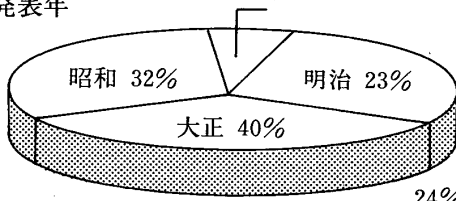
I 曲の分析

全国から選ばれたベスト100曲は平成元年3月1日～5月31日までの募集期間に全国から寄せられた投書657,323通、総曲数5,141曲の中より選ばれた曲である。100曲の中で曲が発表された年代について「通リゃんせ」「子守歌」「中国地方の子守歌」の三曲は古くからあった歌が日本のうた ふるさとのうた全国ベスト100曲

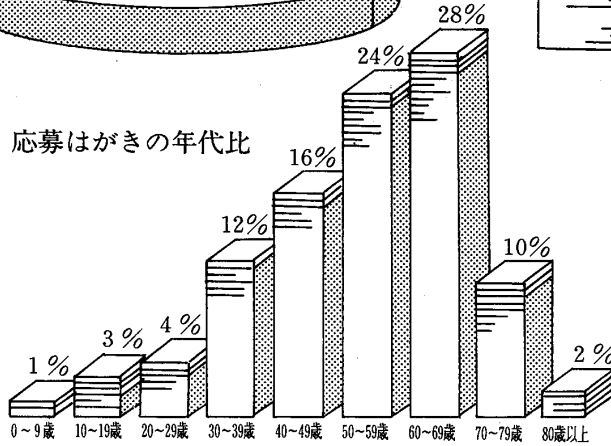
	曲名	作詞・作曲者	作詞・作曲年代	調子
1	赤蜻蛉	三木露風・山田耕筰	作詞大正10年(1921)・作曲昭和2年(1927)	変ホ長調
2	故郷	高野辰之・岡野貞一 (文部省唱歌)	大正3年(1914)「尋常小学唱歌(6)」	ト長調
3	夕焼小焼	中村雨紅・草川 信	大正12年(1923)文化楽譜「あたらしい童謡その1」	ハ長調
4	朧月夜	高野辰之・岡野貞一 (文部省唱歌)	大正3年(1914)「尋常小学唱歌(6)」	ニ長調
5	月の沙漠	加藤まさを・佐々木すぐる	大正12年(1923)児童雑誌「少女倶楽部」	ニ短調
6	みかんの花咲く丘	加藤省吾・海沼 実	昭和21年(1996)ラジオ放送「空の劇場」	変ロ長調
7	荒城の月	土井晚翠・滝 廉太郎 編曲 山田耕筰	明治34年(1901)「中学唱歌」	ニ短調
8	七つの子	野口雨情・本居長世	大正10年(1921)「金の船」	ト長調
9	春の小川	高野辰之・岡野貞一 (文部省唱歌)	大正1年(1912)「尋常小学唱歌(4)」	ハ長調

現在もっとも普及したメロディーに編作された時期をこの本では完成の年代としている。曲の発表年、応募はがきの男女比などは次の図のようである。

100曲の発表年



応募はがきの年代比



(NHK 日本のうたふるさとのうた100曲より転載)

次に全国から選ばれたベスト100曲を1~100まで順位ごとに以下のような項目を作り表にまとめた。

拍子	リズム	音域	備考
$\frac{3}{4}$		変ロ~ホ(11度)	童謡雑誌「樞の実」に発表。現在兵庫県竜野市「三木露風賞・新しい童謡コンクール」がある。
$\frac{3}{4}$		ニ~ホ(9度)	高野辰之 長野県出身, 岡野貞一 鳥取出身 詞の背景 下水内郡豊田村。
$\frac{2}{4}$		ハ~ハ(8度)	全国に14の歌碑を持つ。出版直後関東大震災に遭い本も出まわずに灰になる。残ったわずかな楽譜から全国に広がる。
$\frac{3}{4}$		ニ~ホ(9度)	長野県飯山市背景 歌詞に気品があり, メロディーが優美。
$\frac{4}{4}$		ニ~ヘ(10度)	初放送は昭和2年。作詞者が画家。遠い国の夢をのせて視覚的イメージの曲。
$\frac{6}{8}$		変ロ~変ホ(11度)	一度だけのラジオ放送が大反響。戦後の静かな平和をうたっている。
$\frac{4}{4}$		ニ~ヘ(10度)	世界に通用する数少ない日本歌曲。現在の伴奏譜は山田耕筰による。
$\frac{4}{4}$		ロ~ホ(11度)	茨城県の山林が背景。雨情は「童謡の中に本当の日本の詩謡の素質がある」という思いで詩集を出したが人々は耳をかきかたがた。
$\frac{4}{4}$		ハ~ハ(8度)	東京代々木が詞の背景(明治末期) 歌詞が文語体から口語体に変えられた。

	曲名	作詞・作曲者	作詞・作曲年代	調子
10	浜辺の歌	林 古溪・成田為三	詞は大正2年(1913) 曲は大正5年(1916)	変イ長調
11	花	武島羽衣・滝 廉太郎	明治33年(1900)「四季」を発表	イ長調
12	赤い靴	野口雨情・本居長世	大正10年(1921)雑誌「小学女生」	ハ短調
13	かあさんの歌	窪田 聡・窪田 聡	昭和31年(1956)うた声運動の中で広まる	ホ短調
14	夏の思い出	江間章子・中田喜直	昭和24年(1949)NHK「ラジオ歌謡」放送	変ホ長調
15	椰子の実	島崎藤村・大中寅二	詞は明治33年(1900) 曲は昭和11年(1936)	イ長調
16	早春賦	吉丸一昌・中田 章	大正2年(1913)「新作唱歌」第三集	へ長調
17	里の秋	斉藤信夫・海沼 実	詞は昭和16年(1941)・曲は昭和20年(1945)	へ長調
18	叱られて	清水かつら・弘田龍太郎	大正9年(1920)雑誌「少女号」	変イ長調
19	海	作詞・作曲未詳(文部省唱歌)	大正2年(1913)「尋常小学唱歌(5)」	へ長調
20	浜千鳥	鹿島鳴秋・弘田龍太郎	大正9年(1920)雑誌「少女号」	変ホ長調
21	さくら	作詞・未詳・原曲近代箏曲	明治21年(1888)「箏曲集」東京音楽学校著作	日本俗楽陰旋法
22	さくら貝の歌	土屋花情・八洲秀章	曲の完成 昭和15年(1940)	ハ短調
23	ちいさい秋みつけた	サトウハチロー・中田喜直	昭和30年(1955)NHK「秋の祭典」で発表	ホ短調
24	牧場の朝	杉村楚人冠・船橋栄吉(文部省唱歌)	昭和7年(1932)「新訂尋常小学唱歌(4)」	ニ長調
25	紅葉	高野辰之・岡野貞一(文部省唱歌)	明治44年(1911)「尋常小学唱歌(2)」	へ長調
26	われは海の子	宮原晃一郎・未詳(文部省唱歌)	明治43年(1910)「尋常小学読本唱歌」	変ホ長調
27	四季の歌	荒木とよひさ・荒木とよひさ	昭和39年(1964), スキー事故で入院の時作曲	ニ短調
28	この道	北原白秋・山田耕筰	詞大正15年(1926)「赤い鳥」, 曲昭和2年(1927)	ホ長調

拍子	リズム	音域	備考
$\frac{6}{8}$		変ホ～へ(9度)	美しい詩と流れるメロディー西洋音階,チェロの独奏曲に編曲され世界中で演奏されている。
$\frac{2}{4}$		嬰ハ～嬰ハ(11度)	滝廉太郎21歳の作品。明るく楽しい動き。日本人初の合唱曲作品。
$\frac{4}{4}$		ハ～変ホ(10度)	アメリカ人宣教師のもとに養子に行った少女がモデル。
$\frac{4}{4}$		ロ～ホ(11度)	母親のかわらぬぬくもりと、疎開で身を寄せた信州新町が背景となった。
$\frac{4}{4}$		ハ～変ホ(10度)	詩の持つ美しい抒情性をメロディーにそのまま表現している。
$\frac{4}{4}$		ホ～ホ(8度)	詩の発表から36年後に作曲された。「国民歌謡」として放送された。
$\frac{6}{8}$		ハ～へ(11度)	南安曇郡穂高町が詞の背景。作曲者、中田章は中田喜直の父。父子で100曲の中に作品が選ばれる。
$\frac{4}{4}$		ハ～ニ(9度)	千葉県の小学校の教師をしていた斉藤が南方で戦う父の安否を気づかう子供の心情を思い作詞。曲は昭和20年復員兵を迎える為に作られた。
$\frac{4}{4}$		ハ～変ホ(10度)	詞の持つ情感をそのまま曲に表現。長調で民謡調のメロディーを用い、詩のさびしさを十分に表現。
$\frac{3}{4}$		へ～ニ(6度)	優雅で快いメロディー。作曲者は小山作之助ではないかと言われている。
$\frac{3}{4}$		変ホ～変ホ(8度)	日本の伝統的な五音音階と西洋の作曲手法を融合させた傑作。
$\frac{4}{4}$		ロ～ハ(9度)	サクラは100曲中8曲の歌詞に出て来る。
$\frac{4}{4}$		ハ～変ホ(10度)	曲の完成より9年後 昭和24年NHK「ラジオ歌謡」で全国に広まる。
$\frac{4}{4}$		ロ～ホ(11度)	ボニージャックスのレコーディング盤が昭和37年日本レコード大賞童謡賞を受賞し有名になった。
$\frac{4}{8}$		ニ～ホ(9度)	福島県岩瀬牧場の鐘がモデル。作曲者船橋は日本で初めて演奏された第九のバリトンのソリストであった。
$\frac{4}{4}$		ハ～ニ(9度)	信越線、熊ノ平付近から見た風景がモデル。
$\frac{4}{4}$		変ロ～変ホ(11度)	文部省唱歌で作者不明であったが平成元年作詞者が明らかにされた。
$\frac{4}{4}$		ニ～変ロ(6度)	昭和51年ラジオ番組の電話のリクエストがきっかけで全国に広がる。覚えやすいメロディーで中国でもブームを起こした。
$\frac{3}{4}$		ロ～ホ(11度)	歌詞に合った表現。2拍子、3拍子が巧みに入る。

	曲名	作詞・作曲者	作詞・作曲年代	調子
29	砂山	北原白秋・中山晋平 山田耕筰	大正11年(1922) 児童雑誌「小学女生」へ中山晋平の曲 発表:大正12年山田耕筰発表	ホ短調・ハ短調
30	しゃぼん玉	野口雨情・中山晋平	大正11年(1922) 児童雑誌「金の塔」に発表	ニ長調
31	花嫁人形	蒔谷虹児・杉山長谷夫	詞は大正13年(1924) 少女雑誌「令女界」に発表	ト短調
32	夏は来ぬ	佐々木信綱・小山作之助	明治29年(1896)「新編教育唱歌集(5)」	ハ長調
33	美しき天然	武島羽衣・田中穂積	作曲年代は明治初期と思われる。	ハ短調
34	ぞうさん	まど・みちお・團 伊玖磨	詞は昭和23年(1948) 曲は昭和27年NHK「うたのおばさん」で発表	ヘ長調
35	おもいでアルバム	増子とし・本田鉄磨	昭和36年(1961) 雑誌「幼児のためのリズムカルプレー」に発表	ハ長調
36	たき火	巽 聖歌・渡辺 茂	昭和16年(1941) NHKラジオ「幼児の時間」で初めて放送される。	ハ長調
37	どんぐりころころ	青木存義・梁田 貞	大正10年(1921)「かわいい唱歌」	ハ長調
38	チューリップ	未 確 定・井上武士	昭和7年(1932)「エホンシヤウカ・ナツノマキ」	ヘ長調
39	雨降りお月	野口雨情・中山晋平	大正14年(1925) 童謡・童話雑誌「コドモノクニ」に発表	ハ長調
40	お猿のかごや	山上武夫・海沼 実	詞昭和13年(1938)・昭和14年ビクターレコード	変口調
41	うれしいひな祭り	サトウハチロー・河村光陽	昭和10年(1935)	ハ短調 日本音階
42	青い目の人形	野口雨情・本居長世	大正10年(1921)「金の船」に発表	ホ長調転調
43	揺籠のうた	北原白秋・草川 信	詞大正10年(1921)「小学女性」に発表・作曲大正11年	ヘ長調
44	からたちの花	北原白秋・山田耕筰	詞大正13年(1924)「赤い鳥」に発表・作曲大正14年	ト長調
45	五木の子守歌	熊本県民謡・編作 古関裕而	元の曲は江戸時代(人吉盆地北部五木村)	ホ短調(日本音階)
46	鯉のぼり	作詞, 作曲未詳(文部省唱歌)	大正2年(1913)「尋常小学唱歌(5)」	ヘ長調
47	大こくさま	石原和三郎・田村虎蔵	明治38年(1905)「尋常小学唱歌」(2の中)	嬰ヘ短調

拍子	リズム	音域	備考
中山晋平 山田耕筰		ロ~ニ(10度)・ハ~ニ(9度)	1つの詞に二大作曲家が曲をつけた。日本民謡風・西洋風。
		イ~ニ(11度)	演奏旅行中徳島にあった時、雨情の2歳の娘が亡くなる。愛児に対する気持がこめられた詩。
		ニ~ニ(8度)	路谷は苦勞を重ね、さし絵画家となる。杉山はバイオリン演奏家。
		ハ~ホ(10度)	古風な格調高い詞。戦後やさしい言葉に一部改められ、歌詞が大きく削られた。
		ハ~変ホ(10度)	田中は安政2年の生まれ。終生軍楽隊に籍をおく。日本人が作曲した初めてのワルツ
		ハ~ニ(9度)	戦争時の動物園の動物の話と、象が象であることの誇りをもっている話など、創作にまつわる話がある。
		ハ~ニ(9度)	保育の現場にたずさわったクリスチャンとお坊さんのコンビが生んだ曲。
		ハ~ハ(8度)	たき火について戦前は軍から戦後は消防庁からクレームがついた。
		ハ~ハ(8度)	当時の教材が難しい、芸術性からはずれている等の批判を受けたことから新しく生まれた曲。
		ヘ~ニ(6度)	音域は狭くリズムがシンプル。
		ハ~ホ(10度)	第二節は「雲の蔭」として同年完成。
		変ロ~ニ(10度)	長野県松代出身の2人の作詞・作曲。楽しいリズム。
		ハ~ニ(9度)	作詞・作曲者2人の出世作となった。作詞者の娘がうたう。
		ロ~嬰ハ(9度)	曲の途中で転調があつて再びもとにもどる。
		ハ~ニ(9度)	詩にはわらべうた、子守うたの歌詞を入れる。「ねんねこ」長野県出身の作曲家の曲・やさしい雰囲気曲をたくさん作曲。
		ニ~ト(11度)	歌詞に合わせて、拍子が何回も変わる。言葉を大切に作曲している。
		ロ~ホ(11度)	昭和28年(1953)NHKが九州地方の子守唄収録。地元で歌われているのは $\frac{2}{4}$ 拍子の曲。
		ハ~ニ(9度)	この曲は、弘田龍太郎が東京音楽学校在学中に作曲したものという説がある。
		嬰ハ~嬰ハ(8度)	石原和三郎は慶応1年(1865)に群馬県で生まれ、言文一致運動をうた作りの上で行う。その他「うさぎとかめ」などがある。

	曲名	作詞・作曲者	作詞・作曲年代	調子
48	めだかの学校	茶木 滋・中田喜直	昭和26年(1951)NHK「幼児の時間—歌のおけいこ」で放送	ニ長調
49	雪の降る街を	内村直也・中田喜直	昭和27年(1952)NHK「えり子と共に」	イ短調—イ長調
50	茶摘	作詞・作曲未詳(文部省唱歌)	明治45年(1912)「尋常小学唱歌(3)」	ト長調
51	鳩	作詞・作曲未詳(文部省唱歌)	明治44年(1911)「尋常小学唱歌(1)」	ヘ長調
52	蛍の光	作詞未詳・スコットランド民謡	明治14年(1881)「小学唱歌集(初編)」	ト長調
53	靴が鳴る	清水かつら・弘田龍太郎	大正8年(1919)「少女号」雑誌	ニ長調
54	ふじの山	巖谷小波・作曲未詳(文部省唱歌)	明治43年(1910)「尋常小学読本唱歌」	ニ長調
55	サッチャン	阪田寛夫・大 中 恩	昭和34年(1959)「うたのおばさん放送開始10周年リサイタル」	ヘ長調
56	背くらべ	海野 厚・中山晋平	大正8年(1919)雑誌「少女号」	ニ長調
57	春が来た	高野辰之・岡野貞一(文部省唱歌)	明治43年(1910)「尋常小学読本唱歌」	ハ長調
58	あの町この町	野口雨情・中山晋平	大正13年(1924)童謡・童話雑誌「コドモノクニ」	ニ短調
59	待ちぼうけ	北原白秋・山田耕筰	大正14年(1925)大正15年レコード発表	ニ長調
60	アメフリ	北原白秋・中山晋平	大正14年(1925)「コドモノクニ」	ニ長調
61	箱根八里	鳥居 忱・滝 廉太郎	明治34年(1901)「中学唱歌」	ハ長調
62	コイノボリ	未 確 定・小出浩平	昭和6年(1931)「エホンシヤウカ ハルノマキ」	ハ長調
63	お山の杉の子	吉田テフ子・補作 サトウハチロー・作曲 佐々木すぐる	昭和19年(1944)「少国民文学」	ヘ長調
64	青葉の笛	大和田建樹・田村虎蔵	明治39年(1906)「尋常小学唱歌」	ニ短調
65	あざみの唄	横井 弘・八洲秀章	昭和24年(1949)NHK「ラジオ歌謡」	ホ短調
66	鞠と殿さま	西條八十・中山晋平	昭和4年(1929)雑誌「コドモノクニ」	ホ短調

拍子	リズム	音域	備考
$\frac{4}{4}$		ニ～ニ(8度)	長男とのふれあいが詩になる。
$\frac{4}{4}$		ホ～ホ(8度)	ラジオドラマの挿入歌として作られた。昭和24～27年まで。
$\frac{4}{4}$		ニ～ニ(8度)	民謡の旋律が一部に取り入れられている。歌詞は民謡の「茶もみ唄」京都宇治田原の「茶摘み唄」などを基に作る。
$\frac{2}{4}$		ヘ～ニ(6度)	明治34年に滝廉太郎作曲「鳩ポッポ」とこの2曲で鳩の鳴き声がポッポに定着。実際は“クウクウ”となく。
$\frac{4}{4}$		ニ～ホ(9度)	スコットランドのメロディーに日本語の詞をつけた曲。
$\frac{4}{4}$		ニ～ニ(8度)	児童雑誌の編集者が作詞をして人気が出た。
$\frac{4}{4}$		ニ～ニ(8度)	7音音階で出来ているが、日本的な風雅を感じる曲。
$\frac{2}{4}$		ハ～ニ(9度)	現実の子どもの生活と感情をみずみずしく表現。創作童謡の世界に新境地をひらく。
$\frac{3}{4}$		ニ～ホ(9度)	1拍目を2つに割った3拍子のリズム。「シ」の音を省いた六音の長音階のメロディーは当時新鮮であった。
$\frac{4}{4}$		ハ～ホ(10度)	二人の曲は100曲中5曲も入っている。
$\frac{2}{4}$		ニ～ホ(9度)	民謡的音階。 $\frac{2}{4}$
$\frac{4}{4}$		ホ～ホ(8度)	山田耕筰の歌曲は700曲近くありシューベルトを上回る。
$\frac{2}{4}$		ニ～ニ(8度)	わらべうたのようなリズムでうたう。明るくはずんで。
$\frac{4}{4}$		ハ～ホ(10度)	1つ1つの音符に日本語を1つずつつけておらず2音～3音あてる手法を用いて力強さを出している。
$\frac{3}{4}$		ハ～ハ(8度)	戦前の唱歌は作詞者・作曲者名を出さなかった。昭和20年から出るようになった。
$\frac{2}{4}$		ハ～ニ(9度)	吉田テフ子が22歳で書き、懸賞応募で1位になった唯一の曲。戦争で山から木がなくなった様子。
$\frac{3}{4}$		イ～ホ(13度)	大変音域が広い。発表当時の曲名「敦盛と忠度」
$\frac{6}{4}$		ロ～ホ(11度)	下諏訪の八島高原で詞が書かれた。
$\frac{2}{4}$		ロ～ホ(11度)	$\frac{2}{4}$ 拍子で始まり、終りの4小節 $\frac{4}{4}$ 拍子に変る。「新民謡」とレコードに印されていた。

	曲名	作詞・作曲者	作詞・作曲年代	調子
67	あおげば尊し	作詞・作曲未詳	明治17年(1884)「小学唱歌集(3)」	ホ長調
68	通りゃんせ	わらべうた・編作 本居長世	大正10年(1921) 児童劇「移りゆく時代」	へ長日本音階
69	子守唄	古謡	江戸時代の中頃・昭和16年国定教科書「ウタノホン」	陽旋法・陰旋法
70	中国地方の子守歌	岡山県民謡・編作 山田耕筰	昭和3年(1928)	ト調(日本音階都節)
71	冬景色	作詞・作曲未詳(文部省唱歌)	大正2年(1913)「尋常小学唱歌(5)」	ト長調
72	宵待草	竹久夢二・多 忠亮	作詞大正2年(1913)・大正6年第二回芸術座音楽会で曲が発表される	ハ短調
73	琵琶湖周航の歌	小口太郎・吉田ちあき	詩大正7年(1918)・メロディー大正4年「音楽界」に発表	へ長調
74	春よ来い	相馬御風・弘田龍太郎	曲の完成大正12年(1923)	イ長調
75	かなりや	西條八十・成田為三	作詞大正7年(1918)「赤い鳥」 作曲大正8年	変ロ長調
76	いぬのおまわりさん	さとうよしみ・大中 恩	昭和35年(1960)月刊保育絵本「チャイルドブック」に発表	ニ長調
77	十五夜お月さん	野口雨情・本居長世	大正9年(1920)「金の船」に発表	イ短調
78	旅愁	犬童球溪・オードウェイ	明治40年(1907)「中等教育唱歌集」	変ホ長調
79	海	作詞・作曲未詳(文部省唱歌)	大正2年(1913)「尋常小学唱歌(5)」	へ長調
80	とんがり帽子	菊田一夫・古関裕而	昭和22年(1947)NHK放送劇「鐘の鳴る丘」	変ロ長調
81	かもめの水兵さん	武内俊子・河村光陽	昭和12年(1937)キングレコード	ハ長調
82	かごめかごめ	わらべうた	江戸時代より伝わる	短調日本音階
83	七里ヶ浜の哀歌	三角錫子・ガードン	明治43年(1910)・賛美歌「帰郷のよろこび」	へ長調
84	花かげ	大村主計・豊田義一	昭和7年(1932)レコード「絵日傘」の裏面の曲	ハ短調
85	村祭	作詞未詳・南 能衛(文部省唱歌)	明治45年(1912)「尋常小学唱歌(3)」	ト長調

拍子	リズム	音域	備考
$\frac{6}{8}$		ホ～ホ(8度)	根拠はないが、スコットランド民謡らしいとか賛美歌だと言われた曲。100年以上うたい継がれた。
$\frac{4}{4}$		ニ～ホ(9度)	児童劇の中で江戸時代をあらわす曲として歌われた。掛け合いでうたう。
$\frac{4}{4}$		ハ～ハ(8度)	昔からの歌が教科書にのって全国に広がった。
$\frac{2}{4}$		ホ～ホ(8度)	岡山県出身の音楽家が地元で伝わる古謡を歌ったのが、この曲が誕生した基となった。
$\frac{3}{4}$		ニ～ホ(9度)	やさしい文語体で作られるようになった文部省唱歌の代表的な曲。
$\frac{6}{8}$		ハ～ト(12度)	宮内省雅楽部のバイオリニストの作曲。音域が広い。
$\frac{6}{8}$		ハ～ニ(9度)	吉田ちあきがイギリスの民謡「ひつじ草」の訳詞にメロディーをつけた。三高のボート部員だった小口太郎が現在の歌詞をつけた。
$\frac{2}{4}$		嬰ハ～嬰ハ(8度)	相馬御風は口語自由詩の提唱者であった。歌詞の中の「じょじょ」「おんも」は当時として珍しい。
$\frac{2}{4}$		変ロ～変ホ(11度)	「赤い鳥」の雑誌に曲譜がのった最初の曲。 $\frac{2}{4}$ 拍子から $\frac{3}{8}$ にリズムが変わる。
$\frac{4}{4}$		変ロ～ニ(10度)	長すぎる詞で作曲者・編集者が心配したが、わかりやすいことばでNHK「うたのえほん」の電波で全国に広がる。
$\frac{4}{4}$		ニ～ホ(9度)	出だしはわらべうた「うさぎ」のメロディーを生かしている。
$\frac{4}{4}$		ニ～変ホ(9度)	アメリカの作曲家オードウェイの「家と母を夢みて」をよく知っていた犬童球溪が原曲の雰囲気伝えて作詞。
$\frac{3}{4}$		ハ～ニ(9度)	技巧的にハイレベルな叙情詩、作曲は小山作之助とも言われている。
$\frac{4}{4}$		変ロ～ニ(10度)	ラジオドラマの主題歌、戦災孤児救済の目的で作られた曲。
$\frac{2}{4}$		ハ～ホ(10度)	海の青、かもめの白 色彩のはっきりしているのを曲の上でも表現するため、音楽の基本和音からうたい出す。
$\frac{2}{4}$		ホ～ロ(5度)	現在の「人当て遊び」とはちがって「くぐり遊び」の一種だった。
$\frac{6}{8}$		ハ～ヘ(11度)	実際に起こった悲劇、開成中学校ボート部員の遭難事故。賛美歌に詩をつけた鎮魂の歌。
$\frac{4}{4}$		ハ～変ホ(10度)	レコードの裏面に入れるため即興で作られた曲 作詞者の姉がモデル。
$\frac{2}{4}$		ニ～ホ(9度)	歴史の流れにより歌詞やメロディーが変えられ現在のようになる。昭和55年教科書から消える。

	曲名	作詞・作曲者	作詞・作曲年代	調子
86	影を慕いて	作詞・作曲 古賀政男	昭和4年(1929) 25歳の作品	ニ短調
87	城ヶ島の雨	北原白秋・梁田貞	大正2年(1913)「芸術座音楽会第1回演奏会」	ハ短調
88	波浮の港	野口雨情・中山晋平	作詞大正13年(1924)「婦人世界」・作曲昭和3年(1928)	ニ短調
89	雪	作詞・作曲未詳(文部省唱歌)	明治44年(1911)「尋常小学唱歌(2)」	ヘ長調
90	ずいずいずっころばし	わらべうた	寛永10年(1633) 徳川三代将軍家光の頃	日本音階
91	ペチカ	北原白秋・山田耕筰	大正14年(1925) 詩集「子供の村」レコード化されたのは大正15年	ニ長調
92	蝶々	野村秋足・稲垣千穎・スペイン民謡	明治14年(1881)「小学唱歌」	ハ長調
93	桃太郎	作詞未詳・岡野貞一(文部省唱歌)	明治44年(1911)「尋常小学唱歌(1)」	ニ長調
94	お正月	東くめ・滝廉太郎	明治34年(1901)「幼稚園唱歌」	ヘ長調
95	夕日	葛原しげる・室崎琴月	大正10年(1921) 雑誌「白鳩」	ホ長調
96	てるてる坊主	浅原鏡村・中山晋平	大正10年(1921)「少女の友」	ハ短調
97	オウマ	林柳波・松島つね	昭和16年(1941)「ウタノホン(上)」	ロ長調
98	植生の宿	訳詞・里見義・ビショップ	明治22年(1889)「中等唱歌集」	ニ長調
99	故郷の空	大和田建樹・スコットランド民謡	明治21年(1888)「明治唱歌(1)」	ト長調
100	芭蕉布	吉川安一・普久原恒男	昭和40年(1965) 琉球のラジオ番組「今週のホームソング」	ニ長調

II 詞について

1 100曲を次のように分類してみた。

- (1) わらべうた3曲(通りゃんせ・かごめかごめ・ずいずいずっころばし)
- (2) 古謡 1曲(子守歌)
- (3) 民謡 2曲(熊本県民謡 五木の子守歌・岡山民謡 中国地方の子守歌)
- (4) 文部省唱歌16曲(作詞、作曲者がはっきりしている6曲 春が来た, 春の小川, 紅葉,

拍子	リズム	音域	備考
$\frac{3}{4}$		ニ～ト(11度)	少年時代を過ごした韓国の労働者がうたった哀歌のメロディーが影響を与えた。古賀メロディーの原点のうた。
$\frac{3}{4}$		ハ～ヘ(11度)	ハ短調からハ長調、再びハ短調と転調をしている。3連符や装飾音も使われている。
$\frac{2}{4}$		イ～ヘ(14度)	編集者の持参した波浮の港の写真をもとに作詞され、囃子の「ヤレホンニサ」は晋平のアイデア
$\frac{2}{4}$		ヘ～ニ(6度)	詞の出だしはわらべうたよりとったようだ。メロディーはバイエル68番に似た明るい曲。
$\frac{2}{4}$		ホ～変ロ(5度)	江戸時代お茶壺道中と関係がある。指遊びうた。
$\frac{4}{4}$		ニ～ホ(9度)	日本語の抑揚を大切に作曲。臨時記号を付いたり、取ったりして、表情の変化を現している。
$\frac{2}{4}$		ハ～ト(5度)	外国の曲に日本語の歌詞をあてはめた最初の曲。一節、二節と作詞者が異なる。
$\frac{2}{4}$		ニ～ニ(8度)	歌の中で動物が会話をするのが楽しい曲。教育の場では国威発揚のシンボルとして利用された経緯がある。
$\frac{4}{4}$		ハ～ハ(8度)	口語体で親しみやすい歌。日本で初めて伴奏がつけられた唱歌集。
$\frac{2}{4}$		ロ～ホ(12度)	娘の助言で歌詞が完成。アクセント等がはっきりつけられている。
$\frac{2}{4}$		ロ～嬰ハ(9度)	わらべうたのメロディーを生かして、明るい曲に作曲。
$\frac{4}{4}$		ハ～ニ(9度)	国定教科書第1号「幼少時から軍馬に関心をもたせる」目的のうた
$\frac{2}{4}$		ニ～ニ(8度)	原曲の詩に忠実な訳詞といえる初めての曲。
$\frac{2}{4}$		ニ～ホ(9度)	原曲の歌詞は明るい愛情をうたっていたが日本の教育に合うように改作され歌詞もメロディーも日本人向けにした。
$\frac{3}{4}$		イ～ニ(11度)	アメリカ軍統治下にあった当時の沖縄でその心を芭蕉布に託した歌詞。メロディーもゆったりとしたのどかさがある。

故郷、朧月夜、牧場の朝)

(作詞者未詳の2曲 村祭り、桃太郎)

(作詞、作曲未詳の6曲、海、鯉のぼり、茶摘み、鳩、冬景色、雪)

(作曲者未詳の2曲 ふじの山、われは海の子)

(5) その他の歌曲・作詞、作曲者などがはっきりしない5曲

(作詞者未確定 チューリップ、コイノボリ)

(作詞者未詳 さくらさくら、蛍の光)

(作詞, 作曲者未詳 あおげば尊し)

- ・作詞, 作曲者の確定している73曲である。

2 詞と曲の関係について100曲の中で調べると次の4つの型に分けられる。

- (1) 外国の曲に日本人独自の詩を創作して当てはめた曲
 - ・詩の内容を知り, 日本の国の教育に合わせて作詞した曲。(蛍の光 明治14年)
 - ・日本人の詩を外国の曲に当てはめた曲。(蝶々)
 - ・原曲の内容が日本の教育に不向な為, 原曲と関係ない作詞をして当てはめた曲。(故郷の空)
 - ・外国の曲(賛美歌)に詞をつけた曲。(七里ヶ浜の哀歌)
- (2) 歌詞を原曲に忠実に訳した曲。(埴生の宿)
- (3) 原曲をよく知って, 曲の雰囲気合った作詞をしてうまく伝えている曲。(旅愁)
- (4) 作詞・作曲が日本人による曲。(夏は来ぬ 明治29年, これ以後特別の曲を除いて日本人の曲になる)

文部省唱歌については当時の方針で作詞・作曲者を公表しなかった。戦後昭和22年より明記されるようになったがすでに没していたり, あえて名乗りをあげない人もいたようで作者不明の曲が多い。

3 100曲の中に多く選ばれている作詞家について

- 北原白秋 8曲 (この道, 砂山, からたちの花, ペチカ, 待ぼうけ, アメフリ, 城ヶ島の雨, 揺籠のうた)
- 野口雨情 8曲 (七つの子, 赤い靴, 青い目の人形, 十五夜お月さん, あの町この町, しゃぼん玉, 雨降りお月, 波浮の港)
- 高野辰之 5曲 (春が来た, 春の小川, 紅葉, 故郷, 朧月夜)
- サトウハチロー
3曲 (ちいさい秋みつけた, うれしいひな祭り, お山の杉の子補作)
- 大和田建樹 2曲 (故郷の空, 青葉の笛)
- 西條八十 2曲 (鞠と殿さま, かなりや)
- 清水かつら 2曲 (叱られて, 靴が鳴る)
- 武島羽衣 2曲 (花, 美しき天然)
- 林 柳波 2曲 (オウマ, ウミ)

これらの詞と作曲者の関係では北原白秋の詞8曲のうち5曲を山田耕筰が作曲している。野口雨情の詞には本居長世と中山晋平が4曲ずつ作曲している。高野辰之の5曲は全部文部省唱歌となっており, 作曲者も岡野貞一である。この二人のコンビが明らかになったのは昭和45年(1970)頃である。2人の作品の場合作曲年代と平成元年の調査の人気は丁度逆になっていて興味を引くことでもあった。作詞者の中で長野県の出身者は高野辰之・小口太郎(琵琶湖周航

の歌)・浅原鏡村(てるてる坊主)・山上武夫(お猿のかごや)等4名が選ばれていた。

III 曲について

1 100曲の中に多く選ばれている作曲家を中心に

中山晋平	9曲	(²⁹ 砂山, ³⁰ しゃぼん玉, ³⁹ 雨降りお月, ⁵⁶ 背くらべ, ⁵⁸ あの町この町, ⁶⁰ アメフリ, ⁶⁶ 鞠と殿さま, ⁸⁸ 波浮の港, ⁹⁶ てるてる坊主)
山田耕筈	8曲	(¹ 赤蜻蛉, ²⁸ この道, ²⁹ 砂山, ⁴⁴ からたちの花, ⁵⁹ 待ちぼうけ, ⁷⁰ 中国地方の子守歌, ⁹¹ ペチカ, ⁷ 荒城の月編曲)
岡野貞一	6曲	(² 故郷, ⁴ 朧月夜, ⁹ 春の小川, ²⁵ 紅葉, ⁵⁷ 春が来た, ⁹³ 桃太郎)
本居長世	5曲	(⁸ 七つの子, ¹² 赤い靴, ⁴² 青い目の人形, ⁶⁸ 通りゃんせ, ⁷⁷ 十五夜お月さん)
滝廉太郎	4曲	(⁷ 荒城の月, ¹¹ 花, ⁶¹ 箱根八里, ⁹⁴ お正月)
弘田龍太郎	4曲	(¹⁸ 叱られて, ²⁰ 浜千鳥, ⁵³ 靴が鳴る, ⁷⁴ 春よ来い)
中田喜直	4曲	(¹⁴ 夏の思い出, ²³ ちいさい秋みつけた, ⁴⁸ めだかの学校, ⁴⁹ 雪の降る街を)
海沼実	3曲	(⁶ みかんの花咲く丘, ¹⁷ 里の秋, ⁴⁰ お猿のかごや)
井上武士	2曲	(¹⁹ ウミ, ³⁸ チューリップ)
大中恩	2曲	(⁵⁵ サッチャン, ⁷⁶ いぬのおまわりさん)
河村光陽	2曲	(⁴¹ うれしいひな祭り, ⁸¹ かもめの水兵さん)
草川信	2曲	(³ 夕焼小焼, ⁴³ 揺籠のうた)
古関裕而	2曲	(⁴⁵ 五木の子守歌, ⁸⁰ とんがり帽子)
佐々木すぐる	2曲	(⁴ 月の砂漠, ⁶³ お山の杉の子)
田村虎蔵	2曲	(⁴⁷ 大こくさま, ⁶⁴ 青葉の笛)
成田為三	2曲	(¹⁰ 浜辺の歌, ⁷⁵ かなりや)
八洲秀章	2曲	(²² さくら貝の歌, ⁶⁵ あざみの歌)
梁田貞	2曲	(³⁷ どんぐりころころ, ⁸⁷ 城ヶ島の雨) ※番号は100曲中の順位を示す。

2 中山晋平の曲について

中山晋平の作品は100曲中9曲、大変多い数に驚く。作詞は野口雨情が4曲、北原白秋が2曲、海野厚、西條八十、浅原鏡村がそれぞれ1曲ずつである。砂山は北原白秋の詞に中山晋平と山田耕筈が作曲しているが、中山晋平はヨナ抜き短音階、ホ短調で作曲し、野趣をこめて、はずんで……と表情を示し、新潟地方独特の「樽きぬた」のリズムを入れた民謡調の曲である。山田耕筈の曲はハ短調で作曲し、表情は力なく、寂しく……と示している。メロディーは西洋風である。この二曲については、日本を代表する作曲家2人が同じ作詞に作曲したことで有名であり、その作風も日本風と西洋風と対照的な面を持っている。童謡の会や色々の講座でこ

の2曲を歌ってから、どちらの曲が好きか聞いてみると、丁度半数ずつに分れる。細かい事を話さなくても、それぞれの音楽の好みがちやんとあって、半数ずつに分れるのは納得出来ることである。野口雨情の作詞、中山晋平作曲の曲が100曲中に4曲あるが、二人の活動や雨情の詩情から晋平の作品にはこれ以外でも雨情の詩が多い。この4曲について本居長世の作品と比べると淋しさ、悲しさを、暗くしないで、明るくりズミカルな作品にしている。これは中山晋平の作風でもあるが、平素の生活でもユーモアがあったり、茶目っ気があったと養女である梶子先生の講演で伺った。晋平自信の人柄や、小学校の先生をした経験、その他諸々の要素が重なってこのような作風が生まれたと思われる。

調性と音階について見ると、9曲中、ヨナ抜き長音階で出来ているのが3曲、「しゃぼん玉」「雨降りお月」「アメフリ」で、長調で7音抜きが「背くらべ」で合わせると4曲になる。この中で調性が同じなのが3曲、ニ長調、拍子は $\frac{2}{4}$ 拍子2曲、 $\frac{3}{4}$ 拍子2曲になる。調性と拍子が同じものは「アメフリ」「しゃぼん玉」でヨナ抜き長音階ニ長調、 $\frac{2}{4}$ 拍子である。2曲のリズムについては全く異なっているが付点のリズムで出来ている曲について前述の講演で『晋平はわらべうたのリズム（楽しくはずんだリズム）を書き表したかったが、西洋音楽にはそのようなりズムの手法が無かったので苦心していた。楽譜上は付点を使っているが、これは「わらべうた」のリズムではずむように歌って欲しい』と述べられた。晋平の曲で付点のある曲は、その点を注意して歌うことが大切である。又続いて晋平は自然に歌うことを願っていた事も伺った。それ等のことにも気をつけたい。

さてヨナ抜き短音階の曲は2曲、ヨナ抜き短音階ホ短調「砂山」、ロ短調「てるてる坊主」である。「てるてる坊主」はわらべうたのメロディーを生かしている。その他7音抜きの短音階の曲にニ短調の「波浮の港」がある。「鞠と殿さま」はホ調・陽音階の曲であるので9曲中明るい調性は5曲、短調の調性は4曲である。

3 山田耕筰と他の作曲家の曲について

山田耕筰も100曲中8曲の作品が選ばれている。「赤蜻蛉」は第1位の曲であり、三木露風の作詞は100曲中1つであるが、素晴らしい詞と曲は日本人だけでなく世界にも通用する名曲である。ヨナ抜き長音階、変ホ長調の曲である。次に北原白秋の詞に作曲した曲は5曲あり、これらの曲は西洋音階で作曲されていて、そのうち4曲「この道」「からたちの花」「待ちぼうけ」「ペチカ」は長調の曲である。5曲のうち3曲が $\frac{4}{4}$ 拍子、2曲が $\frac{3}{4}$ 拍子で始まっている。「この道」「からたちの花」「ペチカ」は弱起で始まる曲、言葉を大切にし途中言葉に合わせて拍子の変わる曲は「この道」「からたちの花」である。山田耕筰の素晴らしい曲が並んでいるが歌曲の作品は700曲近くあり、シューベルトを上まわっていることは余り知られていないのではないだろうか。

岡野貞一は6曲が選ばれているが高野辰之の所で述べたので曲以外のことで触れてみたい。岡野貞一は滝廉太郎より1年先(1878年)に生れている。14歳でキリスト教の洗礼を受け教育者としての仕事の他、生涯教会のオルガニストとして奉仕している。ヨナ抜き音階の曲の他西

洋音階の曲もあるのは当時の教育方針もあったが、そのような音楽的な背景も関係しているように思う。100曲中10位までに「故郷」「朧月夜」「春の小川」の3曲が入っている。

本居長世の曲については100曲中5曲が選ばれている。「通りゃんせ」を除き4曲はすべて野口雨情の作詞に曲を付けている。調性と音階・拍子について見ると長調1曲、短調2曲、長調—短調—長調へ転調する1曲である。「七つの子」は7音抜きト長調 $\frac{4}{4}$ 拍子である。4音は1回出て来るが経過音的なのでヨナ抜きに分ける場合も考えられる。短調に関係する曲は3曲あり「十五夜お月さん」のようにヨナ抜き短音階イ短調 $\frac{4}{4}$ 拍子、わらべうたのメロディーが入り、一層淋しさを増している。本居長世の作品この100曲の中の4曲は心に迫る表現がされている曲である。拍子も4曲とも $\frac{4}{4}$ 拍子である。同じ野口雨情の作品で「十五夜お月さん」と「雨降りお月さん」がある。前の曲は本居長世で前述の通りである。後の曲は中山晋平の作曲、ヨナ抜き長音階ハ長調 $\frac{3}{4}$ 拍子でリズムも軽やかに出ている。雨情の妻、つる夫人のお嫁入りの様子を歌っている花嫁さんは「お馬にゆられて濡れてゆく」のに明るいのである。しかし「十五夜お月さん」作詞の背景は雨情とつる夫人が暫く家の都合で別れて暮らすことになって、その別れの様子を歌った曲である。本居長世のこの旋律は心に迫って来るものである。

次に4曲選ばれているのは滝廉太郎・弘田龍太郎・中田喜直の3名で特に中田喜直は現在も多くの曲を作曲されている。沢山の作品が選ばれている作曲家はすでに没している方が多いが、その中で「夏の思い出」「小さい秋みつけた」「めだかの学校」「雪の降る街を」が選ばれている。又「早春賦」が16位に選ばれているが、父の中田章の作曲である。100曲の中に親子で選ばれている唯一の方である。

4 長野県出身の作曲家について

作曲者の中で長野県出身の人々を見ると、まず中山晋平、海沼実、草川信の3名がいる。中山晋平については前に述べたので海沼実と草川信の作品に触れたい。

海沼実は3曲選ばれている。「みかんの花咲く丘」変ロ長調 $\frac{6}{8}$ 拍子、「里の秋」ヨナ抜き長音階へ長調 $\frac{4}{4}$ 拍子、「お猿のかごや」わらべうた変ロ調陽音階 $\frac{2}{4}$ 拍子で3曲とも長調だったり明るい調子の曲でどれも上位の曲になっているが、この明るさが好まれるように思う。

草川信は2曲が選ばれていて「夕焼小焼」ト長調 $\frac{3}{4}$ 拍子「揺籠のうた」ヨナ抜き長音階へ長調 $\frac{2}{4}$ 拍子であるが両方とも素晴らしい曲である。中村雨紅、北原白秋の詞と曲とがまさに一体となった曲である。

100曲中ベスト10位までの曲を見ると、5曲が長野県出身の作詞家・作曲家の曲である。「故郷」「夕焼小焼」「朧月夜」「みかんの花咲く丘」「春の小川」である。

5 作詞・作曲された年代について

明治、大正、昭和と三時代の中でこの100曲はどの時期に作詞、作曲が多いか調べると、明治が26、大正が43、昭和32となっている。明治では34年、43年、44年に多い。大正では2年、9～14年迄が多い。赤い鳥の運動と大いに関係がある。昭和では16年の曲が多い。20年以後40

り変化に豊んできているのがわかる。

拍子については $\frac{4}{4}$ 拍子14曲 $\frac{2}{4}$ 拍子12曲 $\frac{3}{4}$ 拍子11曲 $\frac{6}{8}$ 拍子4曲で100曲の中では $\frac{4}{4}$ 拍子と $\frac{2}{4}$ 拍子が明治と同じく多いことがわかる。

(3) 昭和時代 33曲

日本音階の曲 23曲

- ・ヨナ抜き長音階 (10曲) ハ長調 3曲 ヘ長調 3曲 変口長調 2曲 ニ長調 変ホ長調 7音抜き (4曲) イ長調 ヘ長調 ハ長調 ト長調 4音抜き (1曲) ヘ長調
- ・ヨナ抜き短音階 (4曲) ホ短調 ハ短調 ニ短調 イ短調—転調—イ長調 7音抜き (1曲) ハ短調
- ・陽旋法・陰旋法 (1曲) ・わらべうた (1曲) ・民謡 (1曲)

西洋音階の曲 10

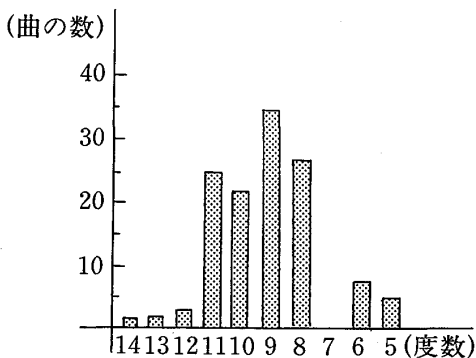
- ・長音階 ニ長調 2曲 変口長調 変ホ長調
- ・短音階 ホ短調 3曲 ハ短調 2曲 ニ長調

音階については5種類、旋法・わらべうた・民謡など合わせると8種となる。調性も10の調があるが多く使われているのはハ長調6曲、ヘ長調5曲、ニ長調4曲などが多い。

拍子については $\frac{4}{4}$ 拍子14曲 $\frac{2}{4}$ 拍子8曲 $\frac{3}{4}$ 拍子7曲 $\frac{6}{8}$ 拍子2曲 $\frac{6}{4}$ 拍子・ $\frac{4}{8}$ 拍子が1曲となっていて、やはり $\frac{4}{4}$ 拍子と $\frac{2}{4}$ 拍子が多いが $\frac{3}{4}$ 拍子が伸びて来ている。

明治、大正、昭和の三時代をこの100曲で見ると調性ではヘ長調が三時代に多く使われ、ト長調、ニ長調、ハ長調が続いている。拍子は $\frac{4}{4}$ 拍子、 $\frac{2}{4}$ 拍子がやはり多かった。

7 音域について



音域については9度の使用が多く100曲中、34曲がそうであり8度は26曲、11度25曲、10度21曲となっている。

最高音はト音を使った曲が4曲あるが、一番多いのはホ音を使った31曲であり、続いてニ音を使っている29曲がある。

最低音はイ音で4曲あるが一番多い低音はハ音で35曲あり次がニ音で25曲である。

音域の使用で多いのはハ—ニ音を使っている13曲、ニ—ホ音を使っている12曲、ローホ音を使っている8曲、ハ—ハ音を使っている7曲などがある。全体に歌いやすい音域だがホ音はなかなか高くて大変なのでニ音まで下げて童謡の会等では歌っているのが現状である。

おわりに

平成3年から童謡・唱歌を愛する会を始めて本年(平成8年)は6年になる。その間に色々

な大会に参加したり、記念行事もおこなった。例会も20数回おこない、その指導を通して奥の深いことを痛感している。そしてこの事が年齢を重ねた人々や、若い人々に広がり受け入れられてゆく姿を見て、細く長く伝えてゆくことの大切さをいつも感じている。

そんな中に平成元年に出された「NHK、日本のうた ふるさとのうた100曲」に興味を持ち、曲の分析をしたり、作詞者と作曲者の関係、つまり曲の出来る過程、背景を知りたいと思い始めた。地域で「童謡・唱歌を愛する会」を始める時の希望曲の調査でも、大正の曲から歌いたいとの多くの声があり始めた経過がある。全国の募集によるこの100曲も大正41曲、昭和33曲（「砂山」は2人の作曲家が作曲し2曲とする）、明治25曲、江戸2曲となっていて全国的にも大正の曲が好まれていることがわかる。「赤い鳥運動」から70年以上が経過しても人々に影響を与えているうたは、日本人の大きな文化財でありその運動がいかに偉大であったか歴史も証明している。100曲を1曲ずつ調べた経験は初めてだった。調性音域などにまだ不十分な点があるのでもう少し時間をかけてみたいと思う。

時代と共に調性が変わっていくことは当たり前だが100曲の中で1曲ずつ見て移り変わっていくのは非常に興味深いし、自分自身がその中にタイムスリップする様な感じもした。今後も更に深く研究を重ねていきたいと思う。

参考文献

NHK「日本のうた ふるさとのうた100曲」

編者「日本のうた ふるさとのうた」全国実行委員会（1991）

編集 講談社

発行所 株式会社 講談社

発行者 野間佐和子

ニューグローブ音楽辞典 4巻（1993）、9巻、12巻（1994）

編集 株式会社第一出版センター

発行所 株式会社 講談社

発行者 野間佐和子

信濃教育 第1284号 発行人 信濃教育会（1993）

現代童謡講話 著作者 西條八十（1924）

発行所 新潮社

十五夜お月さん

一本居長世・人と作品— 著作者 金田一春彦（1984）

発行所 株式会社 三省堂